



米本地区での稲刈り  
昭和32年内に撮影された稲刈りの様子



米本地区での防空訓練  
昭和10年頃に撮影された防空訓練の様子。  
(写真:アムム、宮志野、八千代市の広報誌より)



米本地区の子どもたち  
1941(昭和16)年に撮影された米本地区の子どもの写真。  
(写真:アムム、宮志野、八千代市の広報誌より)

**はじめに**  
「米本空襲」をご存知でしょうか？  
1945年2月19日、千葉県八千代市にある米本という地域をB29、9機が襲いました。死者は11人。  
東京大空襲や千葉空襲といった大規模な空襲と比べると、米本空襲の被害は微々たるものと言えるかもしれません。しかし、被害の大きさだけで戦争を語る事ができるのでしょうか。まさにそれにより忘れられる死者がいるのではないのでしょうか。  
—11人「しか」死ななかった空襲なのか。—11人「も」亡くなった空襲なのか。  
一度立ち止まって、考えてみませんか？

**農村地帯 米本**  
千葉県、八千代市の北東に位置する農村で米本空襲がありました。元は印旛郡の米本村という一つの村でしたが、1889(明治22)年、町村制の実施により、7つの村が合併し、阿蘇村に統合されました。その阿蘇村も1954年に千葉県の八千代町へ編入される形で消滅し、現在に至ります。  
残念ながら米本地域自体の統計記録はほとんど残っていません。現在残っている阿蘇村の記録を頼りにすると、1912年の時点で、阿蘇村の人口3787人中、3160人が農業に従事していたことがわかります。また、アジア太平洋戦争開戦も近い1939年のデータでも、産業の60%以上が農業に集中しており、米本は戦時下においても農業中心の村だったのです。

**農村と戦争**  
1937(昭和12)年に「国民精神総動員運動」が展開されると、その影響は農村にも及びます。阿蘇村では、出征してしまつた家へ生徒に勤労奉仕を行わせたり、村の青年団が消防組や救護班などの勤労報国隊を組織したりしていました。  
都市部と大きく異なるのが「報国」のあり方です。都市部では軍需工場で働くなどして国に貢献していましたが、農村は「食料の増産」で貢献しました。  
1939年に当時コマの入手地として頼っていた西日本や朝鮮で干ばつが起こると、食料事情が大幅に悪化してしまいます。そこで国は、農村での食糧増産に期待しました。阿蘇村は食糧増産に「適正」な村を目指す、標準農村の候補村に指定されました。

**戦争にのみれる**  
米本は農村地帯でしたが、そのような場所でも戦争と無関係に生活していたわけではありません。1937(昭和12)年に初めて米本に召集令状が下ります。その結果、戦時までに142名が召集され、村には若い男がほとんどいない状況でした。  
また、米軍が東京を攻撃する際の経路に米本があったため、頻りにB29や艦載機が目撃されていました。艦載機は低空飛行で人や家畜に向かって機銃掃射を浴びせていました。  
米本では、高空飛行するB29の様子は日常風景となっており、目撃しても避難することはありませんでしたが、低空飛行で襲来する艦載機は恐怖の対象だったと言われています。

**米本を襲った空襲**  
1945(昭和20)年2月19日午後1時20分過ぎ、八千代市にある米本地域に9機編隊のB29が襲来し、約70発の250キロ爆弾を投下してきました。  
死者11名、重軽傷者10人以上、家屋破壊など10棟という被害状況でした。  
爆弾により起きた火災で家が全焼し、その火災に巻き込まれて亡くなった人、爆風で舞い上がった土に埋められて亡くなった人、建物や破壊された壁の下敷きとなって亡くなった人など、凄まじい光景が広がりました。ここで幸けた死者はいずれも子供の例です。  
また、当時の米本に医療機関はなく、牛車などで負傷者を船橋市内の病院へ運搬するしかありませんでした。

**米本の食生活**  
1937(昭和12)年に日中戦争が勃発すると、生活物資の減少と不足が深刻化してきました。そこで政府は配給制度を開始し、市民の生活必需品の消費量を統制するようになります。さらに戦争の長期化に伴い、米の代わりにイモや大豆などが代用食として配給されるようになり、市民は白米にイモや豆を加えて水増しするなど、耐乏生活を強いられることとなります。  
しかし米本地域は農村だったため、自分たちの食料を生産する環境が整っており、食糧難に苦しむことはなく、白米をイモや豆で水増しする必要はありませんでした。食糧不足に苦しむ都市部の人達は、その豊富な食料を求め、荷物などと食べ物を交換しに頻りに米本を訪れていました。

東京  
「私のおばさんとその人の...」  
「そうしたら10日くらい空...」  
「そうしたら、東京の方...」  
「ああB29だ」って、そ...」  
「そして動いて防空壕へ...」  
「そして竹藪の向こうから...」  
「そして私を助けてくれた...」  
「そして私を助けてくれた...」  
「そして私を助けてくれた...」  
「そして私を助けてくれた...」

